

p146 「一問一答」

1. ピレンゼピン塩酸塩は、胃液の分泌を抑えるとともに、消化管の運動も抑制する。
2. 消化薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐きけ等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
3. 授乳中の女性がロートエキスを含む製剤を服用すると、乳児に頻脈が起こるおそれがある。
4. ジメチルポリシロキサン（ジメチコン）は、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として用いられる。
5. 胃粘膜保護・修復成分のセトラキサート塩酸塩は、アルミニウムを含むため、透析療法を受けている人は服用しないこととされている。
6. パパベリン塩酸塩は、副交感神経系の働きを抑えることで胃腸の痙攣を抑える。
7. オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか胃液分泌抑制作用も示す。
8. オウバク、オウレン、センブリといった生薬成分が配合された健胃薬は、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用されると効果が期待できない。
9. タンニン酸アルブミンは、牛乳アレルギーの人は服用しないこととされている。
10. ビスマスを含む成分は、長期連用しても問題は生じない。
11. ロペラミド塩酸塩を含む止瀉薬の服用後は、車の運転等は避けることとされている。
12. ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、食べすぎ・飲みすぎによる下痢、寝冷えによる下痢の症状に用いるもので食あたりや水あたりによる下痢には適用対象でない。
13. タンニン酸ベルベリンは、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として使用される。
14. ピコスルファートナトリウムは、小腸で分解されて、小腸への刺激作用を示す。
15. マルツエキスは、麦芽糖を 60%以上含み、乳幼児の便秘に用いる。
16. ヒマシ油は、腸内容物の排除を目的として用いられ、緩やかで弱い瀉下作用を示すため、妊婦、3 歳未満の乳幼児に使用しても問題ない。
17. 痔による出血がある人が、グリセリン浣腸を用いても問題はない。
18. 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と蟯虫である。
19. 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。
20. サントニンは、回虫に痙攣を起こさせることによって回虫を駆除する。

【解答】

1. × ピレンゼピン塩酸塩は胃液の分泌を抑えるが、消化管の運動には影響を及ぼさない。
2. × 消化薬ではなく、制酸薬。
3. ○ 母乳が出にくくなることもある。
4. ○
5. × アルミニウムを含む胃粘膜保護・修復成分はスクラルファートとアルジオキサ。
6. × パパペリン塩酸塩は消化管の平滑筋に直接働いて、痙攣を抑える。
7. ○
8. ○
9. ○ アルブミンが牛乳由来のタンパク質（カゼイン）から精製された成分であるため。
10. × ビスマスを含む成分を長期服用すると、精神神経症状が現れるおそれがあるため、1週間以上連用しないこととされている。
11. ○ ロペラミド塩酸塩には中枢神経系を抑制する作用があり、眠気を生じることがある。
12. ○
13. ○
14. × 胃や小腸では分解されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解されて、大腸への刺激作用を示すようになる。
15. ○
16. × 急激で強い瀉下作用を示すため、激しい腹痛又は悪心・嘔吐の症状がある人、妊婦、3歳未満の乳幼児では使用を避けることとされている。
17. × 肛門部の傷口からグリセリンが血管内に入り、溶血や腎不全のおそれがあるため、使用は避ける。
18. ○
19. ○
20. × サントニンとは回虫の自発運動を抑えることで回虫を駆除する。回虫に痙攣を起こさせるのは、カイニン酸。